

誓海義本と明谷義光の伝記

川口高風

一 はじめに

寒巖派が尾張に進出してきたのは華蔵義曇の弟子誓海義本（一三九一—一四七〇）と誓海の弟子である明谷義光（一四〇八—一四八二）による。その門流の寺院や法系などはすでに明らかにしたが、（拙著『普濟寺の輪住と尾張の寒巖派』（平成十五年四月 補陀山円通寺））誓海と明谷の詳しい伝記は不詳であった。普濟寺（静岡県浜松市広沢）や常安寺（愛知県西春日井郡豊山町）に所蔵する略譜や世譜などから伝記の一部は明らかにしていたが、全貌を知ることとはできなかった。しかし、最近、円通寺に表紙が「円通革鼎記」とあり、宝永六年（一七〇九）八月八日に円通寺

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

九世興倫元苗が記した「円通革鼎記」を始め寺史資料が一冊に合綴されたものを確認できた。

その中には、明治三十一年五月に同寺二十七世信叟仙受が書き出した「開祖已降歴住之履歴」や「開祖誓海義本禅師略伝・二世明谷義光禅師略歴」、「円通現住記及末山略考」などが所収されている。

本書の所依資料は不詳であるが、円通寺に所蔵していた往昔の書上げや末寺の長楽寺（名古屋市南区呼続）に所蔵していた資料を明治三十年十二月八日に成道寺の等愿康と長楽寺の活禅が書写し、それが円通寺に伝わったものである。ここに本書を中心として誓海と明谷の伝記を明らかにしてみよう。

二 伝記資料について

一、「普濟寺開山伝及五代尊年譜」

本書は普濟寺に所蔵しており、開山寒巖義尹大和尚伝や普濟寺五代尊年譜略記などを書写したものが一冊に合綴されている。その中に「誓海和尚略譜」があり、誓海の略伝と明谷の示寂日が記されている。また、円通寺は明谷示寂後に輪住となったことも記されている。

二、「常安寺世譜」

本書は常安寺に所蔵しており、美濃紙十九葉より成る。

奥書には

大日本帝国

中興紀元貳仟五百肆拾玖年

第弑月十捌日之撰定畢 橘正塾

とあり、明治二十二年一月に橘正塾すなわち上田正国が撰述したもので、内容は、

釈尊系図 過去七仏示寂図 道元大和尚系図 寒巖派
祖師 法王禪師寒巖義尹大和尚系図 常安寺世代示寂

表

などが記されている。誓海と明谷については「円通円通義本大和尚」開山「常安常安義光禪師」と題して伝記が記されている。なお、常安寺の世代は二十七世南嶺戒翁（明治十六年旧五月九日寂）までの伝記で終っており、上田は他に「常安寺縁記」（ア）「溝口氏系図」も撰述し孔版印刷している。

三、「日本統燈草稿」

本書は円通寺に所蔵する。明治三十年頃に「日本統燈」を編集するにあたり、その草稿と思われる「尾張州愛知郡熱田市補陀山円通寺系図」の原稿である。

開祖誓海から二十二世勇進大強までと二十六世独潭碧外の伝記があり、誓海、明谷は「常安寺世譜」より写し出されたものであろう。明谷伝の末尾に輪住のことをいうが、それは「本山譜並広沢見聞記」に詳しいといっている。

四、「開山第一祖併二世ノ略譜」

本書は内容から筆者が付した題で、円通寺二十七世信叟仙受が明治三十一年五月十六日に熱田町役場へ書き出した

同寺開祖以降歴住の履歴の下案である。往々に誤謬はあるが、それらを改めて上申したという。開祖より信叟が晋山開堂した明治二十五年四月二十八日までのが記されている。

開祖は「勅特諡大明禪師當寺開山誓海義本大和尚略譜」とあり、誓海の誕生、得度、創立、勅宣、三尺坊、諡号、死亡、来山の八項目について記されている。二世明谷は「當山二代常安寺福重寺法持寺三所ノ開祖明谷義光禪師ノ略譜」とあり、誕生、得度、就職、来所、死亡の五項目について記されている。

五、「円通開祖誓海義本禪師略伝」

「円通二世明谷義光禪師履歴」

本書は円通寺に所蔵する。書写者是不詳。誓海の伝記は初め「円通開祖御伝記」であった。しかし、「御伝記」が消され「誓海義本禪師略伝」と改められているところから正式のタイトルは「円通開祖誓海義本禪師略伝」である。

ベースの伝記に朱字で誤字が訂正され、脱字を補っている。伝記の後に「開祖略履歴」があり、誕生、得度、入衆、

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

修学、伝法、到遠劬、到尾劬、円通開堂、勅詔、異（神）僧来参、三尺坊伝戒、諡号、示寂の十三項目にわたり年次と年令をあげている。

明谷の伝記は「円通二世明谷義光禪師履歴」とあり、信叟仙受が訂正したり書き入れを行っている。伝記の後に「二世明谷義光禪師履歴」があり、誕生、得度、入衆、修学、伝法、開創常安、創立福重、応請法持、神人來参、董住円通、遷化、法臘の十二項目にわたって年次と年令をあげている。なお、「円通二世明谷義光禪師履歴」のみは、信叟仙受が訂正した伝記を別に再写している。

三 伝記資料

誓海義本の伝記資料

一、「普濟寺開山伝及五代尊年譜」（「普濟寺文書」と略称）

誓海和尚略譜

師諱義本。字誓海。其生縁不詳也。遠州普濟寺華藏禪師之神足而乃十三哲之上嫡也。華藏禪師応永末開普濟基之後。永享之末於広沢室中師資面伝受正法了。乃嘉吉年中開補

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

陀山於尾州熱田^二而在^一住若干歳。文明二年^{庚寅}秋八月八日示寂。勅諡大明禪師^{円通二代義光和尚者師之神足也。}

二、「常安寺世譜」（「世譜」と略称）

円通
開山 円通義本大和尚

永享十一年己未普濟寺ノ方丈ニ於テ華藏義曇和尚ノ嗣法ヲ伝受シ、嘉吉中ニ円通寺ヲ開山シ、文明二年庚寅八月八日示寂。師ハ大明禪師ト称シテ熱田少宮司田島氏ノ需ニ応シ、田島小路円通寺ヲ開キナリ。一説ニ明德二年円通寺ヲ開山スト。然レトモ當時華藏義曇和尚ハ未タ遠州ニモ至ラサル前ノミナラス。肥後ノ国海蔵寺ニテ嗣法セサル前十三年ナレハ一問題ト云ヘシ。華藏義曇和尚ノ嗣法セラレシ応永十三年ヲ去ル三十四年ニシテ、上足ノ弟子誓海義本ニ伝受。

三、「日本統燈草稿」（「統燈」と略称）

大日本帝国尾張州愛知郡熱田市補陀山円通寺為遠江州敷知郡浜松広沢十六派^{三派}即尾三遠甲十三哲五百有餘箇寺之最上位。山号補陀。寺名円通。開祖諱義本。字誓海。雖生縁

未詳。嗣法広沢真開山華藏曇和尚神足。応永末先師開普濟基之後。永享之末於広沢室中師資面伝受正法了。嘉吉年中開山今之道場。一百三代後花園天皇康正^{乙亥}先師八十一歳而入於石室中新豊定。一百月許定中鳴磬一日音断從候隙間之。答日^{別誓海帰云々}。道俗雲集帰焉化風大辰。田島丹波守有神隨侍左右。有半于茲伝法明谷義光在住若干年。文明二庚寅秋八月八日寂然化。勅諡大明禪師。

四、「開山第一祖併ニ二世ノ略譜」（「略譜」と略称）

勅特諡大明禪師當寺開山誓海義本大和尚略譜

誕生 明德二年辛未正月七日生ル。尾張国熱田ノ宮司尾

張守田嶋氏仲宗ノ子。天火明帝四十九代ノ孫ナリ。

得度 応永十年癸未ノ夏発心剃髮。遠江国浜名郡浜松町

普濟寺開山華藏禪師ノ法ヲ伝授セラル。

創立 永享十年戊午四月十五日當山開基尾張守田嶋氏ノ請ニ応シテ晋山開堂第一祖ト称ス。本年創立成工ノ終ヲ告ク。

勅宣 宝徳三年辛未ノ春宝徳上皇ヨリ禳災道場トノ勅ヲ賜ハル。

三尺坊 応永二年戊子十一月十六日三尺坊仏戒ヲ授リ玉フ。因ニ開祖羽休ノ神号ヲ奉ラル。

諡号 文明元年己丑文明上皇ヨリ大明禪師ノ諡号ヲ賜ハル。

死亡 文明二年庚寅八月八日遷化セララル。

来往 開祖遠江国浜松町普濟寺ヨリ来往セララル。転住退席ナシ。住山三十三年ナリ。

五、〔円通開祖誓海義本禪師略伝〕（略伝）と略称）

円通開祖誓海義本禪師略伝

師諱義本。号誓海。尾張国尾張守田嶋仲宗子。天火明帝四十九世孫也。其母夢異神降臨有孕。明德二年辛未正月七日生。儀貌偉秀。聡恵絶倫。一日上途。

稟異神教。奮志出塵。

応永十年癸未夏。依肥後護神開祖法鑑。剃染具戒。授業於海蔵開祖特城。後登丹波永沢礼天真。真令師參趙芻平生心是道之話。苦心実究。頗有省処。次転錫越前龍沢見梅山。一日問云。学人習模象怪真龍。即今活捉来。請須驗辨山打云直須頭湫倒嶽。師言下大悟。欲掀飄禅床去。山趨住云。

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

未在更道。師脅下一捫云。万仞龍門鎖黑雲。山托開唱出。師即礼拝。留錫有年。親達道奥。次遊洛陽建仁。勘臨濟四料四喝之機要。次參諸山耆宿。

応永二十六年己亥秋。帰肥後。礼海蔵華蔵。蔵問甚處去来。

師曰乾坤之中。宇宙之間蔵訶曰未徹在。師捫捏師鼻頭曰。

和尚還未徹在。蔵笑云破木杓遂充典座。一日蔵到庫堂。問

你什麼。師笑云破木杓。蔵復問飯熟也。未師云厨務事間。

諸和尚道。蔵曰破木杓。因師喚破木杓。試以洞山五位三路。

三滲漏。古今古則公案。師通達自在矣。薩之福昌石屋有欲

赴京師之聞。乃往相見。屋大示古今仏祖行李。因与扠子。

師礼辞帰海蔵。

同曆三十四年丁未四月八日。入華蔵室。伝衣法悉附属。永

享四年壬子春。従華蔵適遠州普濟。創建事業。同曆六年甲

寅冬。晋院開堂。師為首座。一夜感靈夢徐步到尾州。參籠

熱田社。深夜神人来告曰。我是社神矣。此地有松下觀音。

頗靈地也。師可住焉。言訖不見。翌旦到田嶋家。告前夜夢。

喜而啓觀音旧趾。構造梵刹。改為禅居。即尾州禅林之始矣。

同曆十年戊午四月十五日。田嶋家延師請開山第一祖。晋院

開堂。法門不啓。道聲遠震四方。道俗競集或五百或千有餘。

宝徳上皇遠聞令徳。特以円通為禳災道場。康正元年乙亥春。

神僧來而參隨久矣。応仁二年戊子十一月十六日夜。告師曰

我是秋葉三尺坊也。久受禪旨。達仏祖道奥。是我慶幸。願

稟受仏祖大戒。師首肯。神忽現異相。師為授金剛宝戒。奉

羽休神号。神歡喜謝以鎮防火燭及自刻像。為寺門鎮護之誓作。

礼而隠。師領衆有年。

文明元年己丑、上皇聞師德音。諡大明禪師。同曆二年庚寅

秋。属微恙。命嗣子明谷義光統其席。八月初八日。召門人

遺誡曰。你等勉振興祖道。勿令墜地。索筆書偈了坐化。世

寿八十年。法臘六十有九。嗣子悟峰。義雲。義中等。外有

数人矣。

蔵 師二十九歳

同帝同曆二十九年壬寅春謁石屋禪師

師三十二歳

一 伝法 同帝同曆三十四年丁未四月八日

師三十七歳

一到遠劔 同帝二代後花園帝永享四年壬子春

師四十二歳

一到尾劔 同帝同曆八年丙辰秋

師四十六歳

一 円通開堂 同帝同曆十年戊午四月十五日

師四十八歳

一 勅詔 同帝宝徳三年辛未春勅為禳災道場

師六十一歳

一 異神來參 同帝康正元年乙亥春

師六十五歳

一 三尺坊伝戒 人皇百三代後土御門帝応仁二年戊子冬

師七十八歳

一 諡号 同帝文明元年己丑諡大明禪師

師七十九歳

一 示寂 同帝同曆二年庚寅八月八日

師八十歳

開祖略履歴

一 誕辰 人皇百代後小松天皇明德二年辛未正月七日

一 得度 同帝応永十年癸未夏 師十三歳

一 入衆 同帝同曆十六年己丑參天真禪師 師十九歳

一 修学 同帝同曆十九年壬辰參梅山禪師

師二十二歳

人皇百一代称光帝応永二十六年己亥秋帰海

明谷義光の伝記資料

一、「普濟寺開山伝及五代尊年譜」(「普濟寺文書」と略称)

円通二世明谷義光禪師 文明十四年十月十二日示寂

其後經三十九年明応元年為輪住。百五十余年之間也。

輪住初常安寺二代悟峰宗得和尚也。円通二代明谷上足。後

正保四年丁亥秋為独住。無能秀榎和尚三代也。

二、「常安寺世譜」(「世譜」と略称)

常安開山 常安義光禪師

円通二世、普濟輪住明谷義光大和尚ハ熱田ノ大宮司千

秋家ノ子ニシテ、前往円通后チ普濟寺ニ行キ、永享中

ニ常安寺ヲ開山シ、熱田ニ歸リ白鳥山法持寺ヲ宝徳元

己巳ノ年ニ開山シ、又龜宝山福重寺ヲ開山ス。誓海義

本和尚ノ嘉吉年中ニ嗣法セシヨリ文明十四年壬寅十月

十二日ニ至リ示寂ス。此間通計四十二年ナリ。義光禪

師僊化ノ后チ十二年、円通寺モ輪番地ト為ス。時ニ明

応元年ナリ。義元禪師ハ義光ニ作セトモ俗名千秋、尾

張ノ宿禰義元ナルヤモ知ルヘカラス。示寂モ亦四説有

誓海義本と明谷義光の伝記(川口)

リテ、通例円通寺ニ伝フル所ハ文明十四年壬寅十月十二日ナリ。一ニ応永十一年甲申九月十二日ニ作ル。然レ雖此時ハ華蔵義曇和尚ノ肥後国海蔵寺ニテ嗣法前三年ナレハ論ヲ待タサルナリ。一ハ応永四年甲申極月十二日ト有レ雖モ応永四年ハ丁丑ニシテ甲申ナシ。是レ又當ラサルナリ。一ハ大永四年甲申ナレトモ是レ又アマリニ晩ソナレハナリ。今ハ本寺ノ伝ニ従フ。

三、「日本統燈草稿」(「統燈」と略称)

師諱義光。字明谷。尾張州熱田大宮司千秋氏子也。追慕海

老師道風落髮隨從左右若干年。遂嗣法了畢。后開法三所謂

白鳥山法持寺福重寺常安寺也。董円通後蹤而化風培盛焉。

滅唱文明十四壬寅十月十二日。滅后三寺住僧感靈夢寿像

分三処。鎗杖安_ニ福重影堂_ニ為_ニ大宮司焉_ニ。福重交際培親_ニ後

漸疎而年甫唯玄関投名刺而已。白鳥山者年且必於熱田神前

転般若。此時三天夫持拜席從。是自_レ古例察也。而後自末山三寺互輪番

住。凡一百五十貳年則自明応元壬子年到慶安四辛卯年。

四、「開山第一祖併ニ二世ノ略譜」（略譜）と略称

當山二代常安寺福重寺法持寺三所ノ開祖明谷義光禪師ノ略譜

誕生 応永十五年戊子四月一日生ル。尾張国熱田ノ宮司尾張守田嶋氏仲稻ノ子。天火明帝ノ後胤ナリ（師ヲ千秋家ノ子ト伝ル者ハ全ク虚伝ナリ）得度 応永二十九年壬寅三月五日発心剃髪セラル。永享十一年己未八月二十八日円通寺開山大明禪師ニ法ヲ授リ玉フ。就職 文明二年庚寅九月當山ニ晋院住職。

来所 尾張国熱田町字白鳥法持寺ヨリ来住セララル。転住退席ナシ。

死亡 文明十四年壬寅十月十二日當山ニテ遷化。

五、「円通二世明谷義光禪師履歴」（履歴）と略称

円通二世明谷義光禪師履歴

師諱義光。号明谷。尾州熱田宮司田嶋氏仲稻子。応永十五年戊子四月一日生。幼歲通儒学。十五歳投肥後海蔵寺剃染受具広究経論。十九歳謁越之耕雲傑堂能勝禪師。一日聞傑堂。上堂拳青原鉤斧住山話頭如脱桶底有省處。未幾傑堂示

微疾。転錫於近江洞寿參如仲天闇禪師。一日闇問曰。向上一路作麼道不伝底。師欲進語。闇以手掩。師口次日師登方丈欲進語。闇堅閉却方丈門不入許。遂入室寝心無寢。一日闇急攻曰作麼道不伝底。師言下大悟翻身大笑出晚間召方丈拈拄杖。再勘曰枢機蜜瓮関板未透。師奪拄杖去止錫有年。苦心參究入道奥。

永享五年癸丑秋帰遠州普濟礼華蔵禪師。翌年開堂義本禪師為首座。本公試以馬祖再参話頭到百丈三日耳聾處殆乎。如忘生親稟両師提携。五家宗風仏祖言教正偏五位秘訣悉無不究尽。永享八年丙辰秋隨從義本禪師到尾州及円通創建。在直歳局取勞以為向上勸。永享十一年己未八月二十八夜入室伝法執侍左右有年。孝順不可言。

宝徳元年己巳春応某氏請開創常安寺。大播宗風礼楽盛行。康正二年丙子秋席讓悟峰。応某氏請創立福重寺。化儀盛興先師併揚。于時某氏復興法持寺懇請堅辭不許。文正元年丙戌春跡属義雲転于法持。道俗雲集常遶下者不減半千指。或夜白衣神人来正衣冠曰。義本和尚者熱田明神化也。和尚者七世善知識也。忽化白鳥去。

文明二年庚寅初秋先師示微恙囑托後事住山未幾席讓義中奉

先師遺命。同年九月董住円通晋院開堂。盛唱先師宗風常安
 福重法持三處請師稱開山第一祖。同曆十四年壬寅十月十二
 日以疾召門人曰。此地神仙靈境仏祖法窟也。容易不可董住。
 吾門葉徒輪住而流化未來際謂訖書遺偈顔貌怡然逝矣。世壽
 七十五。法臘六十。嗣子三人。義天。義順。瑞香等也。則
 分舍利於納干四處。

二世明谷義光禪師履歷

- 一 誕生 人皇百代後小松帝応永十五年戊子四月一日
- 一 得度 人皇百一代称光帝応永二十九年壬寅三月五日
- 一 入衆 同帝同曆三十三年丙午春謁傑堂禪師

一 修学 同帝同曆三十四年丁未春參如仲禪師

人皇百二代後花園帝永享五年癸丑秋帰遠芻
 師二十歲

一 伝法 同帝同曆八年丙辰秋到尾芻 師二十九歲
 同帝同曆十一年己未八月廿八日 師三十二歲

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

一 開創常安 同帝宝徳元年己巳春住山八年 師四十二歲
 一 創立福重 同帝康正二年丙子秋住山十一年 師四十九歲
 一 一応請法持 人皇百三代後土御門帝文正元年丙戌 師五十九歲

一 一神人来参 同帝応仁二年戊子正月五日夜 師六十一歲
 一 一董住円通 同帝文明二年庚寅九月 師六十三歲
 一 一遷化 同帝同曆十四年壬寅十月十二日 師七十五歲
 一 一法臘 六十歲

四 おわりに

伝記資料によつて誓海と明谷の伝記を年表形式で紹介し
 てみると次のようになる。

年号	西曆	行状
明徳二年	一三九	正月七日、誓海、熱田宮司尾張守田嶋仲宗の子として生る。(略譜) (略伝) 生縁不詳。(普濟寺文書) (続燈)
応永十年	一四三	夏、誓海、発心剃髮す。(略譜) 肥後海蔵開祖徳城禪師(梅巖義東)に授業す。(略伝)

誓海義本と明谷義光の伝記（川口）

〃十五年	一四〇	四月一日、明谷、熱田宮司尾張守田嶋仲稲の子として生る。（略譜）（略伝）千秋家の子と伝うるは虚伝なり。（略譜）	〃八年	一四〇	秋、明谷、誓海に随従して尾州へ戻り、円通寺創建に尽す。（略伝）（履歴）
〃十六年	一四〇	誓海、丹波永沢寺の天真自性に参す。（略伝）	〃十年	一四一	四月十五日、誓海、田嶋氏の請に応じて円通寺に晋山開堂し第一祖と称す。（略譜）（略伝）
〃十九年	一四三	誓海、越前龍沢寺の梅山開本に参す。（略伝）	〃十一年	一四二	誓海、普济寺の方丈において華蔵の法を嗣ぐ。（世譜）八月二十八日夜、明谷、誓海の室に入り伝法す。（略譜）（略伝）
〃二十六年	一四九	秋、誓海、肥後海蔵寺の華蔵義曇に礼謁す。（略伝）	永享年中	一四二	明谷、常安寺を開く。（世譜）年末、誓海、普济寺室中にて華蔵と師資面受す。（普济寺文書）（統燈）
〃二十九年	一四三	春、誓海、薩摩福昌寺の石屋真梁に謁す。（略伝）明谷、三月五日、肥後海蔵寺の華蔵の下で剃髪受具す。（履歴）	嘉吉年中	一四二	誓海、円通寺を開く。神随侍して伝法す。（世譜）（統燈）明谷、誓海の法を嗣ぐ。（世譜）
〃三十三年	一四六	春、明谷、越後耕雲寺の傑堂能勝に謁す。（履歴）	宝徳元年	一四九	春、明谷、常安寺を開創す。（履歴）明谷、法持寺を開き、福重寺も開山す。（世譜）
〃三十四年	一四七	春、明谷、近江洞寿院の如仲天間に参す。（履歴）四月八日、誓海、華蔵の室に入り伝衣法を付属される。（略伝）	〃三年	一四五	春、誓海、勅詔により円通寺を禳災道場とす。（略譜）（略伝）
永享四年	一四三	春、誓海、華蔵に随つて遠州普济寺へ行き創建事業を行う。（略伝）	康正元年	一四五	春、神僧が誓海の下に参随す。（略伝）
〃五年	一四三	秋、明谷、遠州普济寺の華蔵の下へ帰る。（履歴）	〃二年	一四六	秋、明谷、常安寺を悟峰に譲り福重寺を創立す。（履歴）
〃六年	一四四	冬、華蔵、普济寺に晋院し、誓海、首座となる。（履歴）	文正元年	一四六	春、明谷、福重寺を義曇に譲り法持寺へ献

応仁二年	一四六	住す。(履歴) 正月五日夜、明谷、神人来参す。(履歴) 十一月十六日、誓海、三尺坊に伝戒し羽休の神号を奉らる。(略譜)(略伝)
文明元年	一四九	誓海、後土御門帝より大明禅師の諡号を賜わる。(略譜)(略伝)
〃二年	一四七	初秋、誓海、微恙を示したため明谷に円通寺を継がせ、八月八日に示寂す。(普济寺文書)(世譜)(続燈)(略譜)(略伝)
〃十四年	一四二	九月、明谷、円通寺に晋院開堂す。(履歴) 十月十二日、明谷、世寿七十五歳で示寂す。(普济寺文書)(世譜)(略譜)(履歴) 示寂後、歴住三力寺住僧は霊夢を感じて寿像を三力寺に安置する。(続燈)

この年表から誓海と明谷にはそれぞれ異説がみえる。誓海は華蔵義曇よりの嗣法年次、円通寺開創年次などがあり、明谷は生家、常安寺、福重寺、法持寺の開創年次、示寂日などに諸説のあることが明らかになる。

伝記資料は普济寺所蔵文書を除けば、他は明治二十二年から同三十一年頃に書写したり編集されたものである。所

誓海義本と明谷義光の伝記(川口)

依資料は円通寺に旧蔵されていた文書の書上げや長楽寺に所蔵する文書であったため、資料批判を加えるならば成立過程の問題も出てくるであろう。しかし、円通寺、長楽寺は戦災にあい伝記資料の原本が焼失してしまった今日、本伝記資料は貴重なものといえる。これによって今まで知られていなかった誓海と明谷の詳しい行歴が明らかになったのである。